



## 令和5年度 診療科・部門のご案内

- 挨拶 院長 猪股裕紀洋
- 副院長／院長補佐紹介

呼吸器内科／消化器内科／脳神経内科／糖尿病・代謝内科／循環器内科／循環器足壊疽外来／腎臓内科／アレルギー外来／小児科／脳神経外科／血管内科／心臓血管外科／形成外科／呼吸器外科／消化器外科／一般外科／乳腺外科／整形外科／小児外科／移植外科／皮膚科／泌尿器科／産婦人科／耳鼻咽喉科／眼科／リハビリテーション科／放射線科／麻酔科／リウマチ内科／リウマチ・膠原病内科／病理診断科／臨床研修医／看護部／薬剤部／中央放射線部／中央検査部／中央リハビリテーション部／栄養管理部・栄養管理室／中央臨床工学部／入退院支援センター／地域医療連携部・地域医療連携室



# ご挨拶

院長 いのまた 猪股 ゆきひろ 裕紀洋

新年度を迎え、皆様には春の息吹から初夏に向かう安らかなひとときをお過ごしのことと存じます。

今年の春は、過去3年続いた新型コロナウイルス感染症(コロナ2019)からの呪縛から少し解放される時となりました。いわゆる2類から5類への「格下げ」が行われ、巷では、一部でのマスクからの解放など、目に見える変化が生じています。

しかし、病院となるとだいぶ話は別で、一日で患者さんがゼロになるわけもなく、世間での制度的な扱いは変わっても、院内での感染防御や隔離の態勢は大きくは変化しません。マスクも、入館者は全員装着必須です。とはいえ、すでに国の指針でも出されたように、診療上も意味のある面会の再開は5月8日を期して実行しています。一家族3人まで、1回15分までと言う制約付きですが、例えば直接お孫さんがおじいちゃんの手を握ってあげる、それは貴重な癒やしになるのではないかと想像します。

今後、医療機関同士の陽性者入院調整になるとのことで、当院としても、病床はいつでも準備して対応する所存です。ただ、今後は入院を必要とする疾患担当科が主治科となり、これも国の指針通りですが、それぞれの担当科での個室管理を原則とする予定です。不幸にして他疾患入院中に陽性となる患者様もあり、時にいわゆるクラスターとなってきたわけですが、この場合は、大部屋への陽性患者のコホート(集中化)管理も含めて、原則その病棟での管理を継続する、という方針で、病棟休止などによる一般患者様の診療にできるだけ影響がでないようにする予定です。

コロナ2019の社会的呪縛から解放されており、種々の対面での勉強会や講演会を再開してまいります。一つは、来る6月23日(金)に、八代グランドホテルで予定しております、「熊本労災病院地域医療連携の会」です。今回は、特別講演者に熊本大学医学部長の尾池雄一先生をお招きし、熊本大学医学部の現状についてお話しいただく予定です。尾池先生は、「八代地域にも多くおられるOBOGの皆様にもわかりやすい話をします。特に今後の地元で活躍医師育成を目指して、学生さんのリクルートも視野に入れていきます。」とのことでした。医師を目指す、中高生のお子様がいいらっしゃる方は、ご両親での参加も含め、是非ご聴講にお出でいただければと存じます。もちろん、その後の懇親会で当院での診療の実態を担当者が直接お話しさせていただく機会も作りたいと思っております。

また、後日ご案内いたしますが、7月7日(金)に、桜十字八代ハーモニーホールで、「うんち博士」こと、中野美和子医師による、小児の排便に関する市民公開講座も開催します。親御さんだけでなく、保育士さんや教諭のみなさんにも、目からうろこの楽しい話が聞けるものと存じますので、メディカルスタッフの方々もお誘いいただければと存じます。

新年度を迎え、当院の診療体制も少しずつ変化し、耳鼻科を中心とした多職種による睡眠時無呼吸症候群の診療や、乳がん、子宮がん検診の開始など、新たな取り組みも始まっています。一方、救急車搬入台数も増加傾向で、当院の「断らない救急」は不変です。創設以来70年の年を経っていますが、なお進化する熊本労災病院を今年度もどうぞよろしくお願いたします。

# 理念

## 良質で信頼される医療の実践

### 基本方針

- 1 地域の人々と働く人々に寄り添い、その健康と尊厳を守ります。
- 2 地域医療機関と連携し、急性期医療を担う中核施設として全人的医療に貢献します。
- 3 いつでも受け入れられる救急医療、災害医療を実践します。
- 4 人にやさしく優れた医療人を育成します。
- 5 病院の理念実現のための健全な経営基盤を確立します。



#### 患者の権利

- 1 全ての患者さまが良質で安全な医療を平等に受けることができます。
- 2 自身の病気や医療内容について、十分な説明を受けることができます。
- 3 詳しい説明を受け十分に理解した上で、検査や治療方法を自身で選ぶことができます。また、当院での治療計画を他院の医師に相談することができます(セカンドオピニオン)。
- 4 医療上得られた個人情報などのプライバシーは、法的あるいは治療上などの正当な要請のある場合を除き、保護されます。
- 5 手続きに則り、自身の医療上の記録や情報の開示を求めることができます。

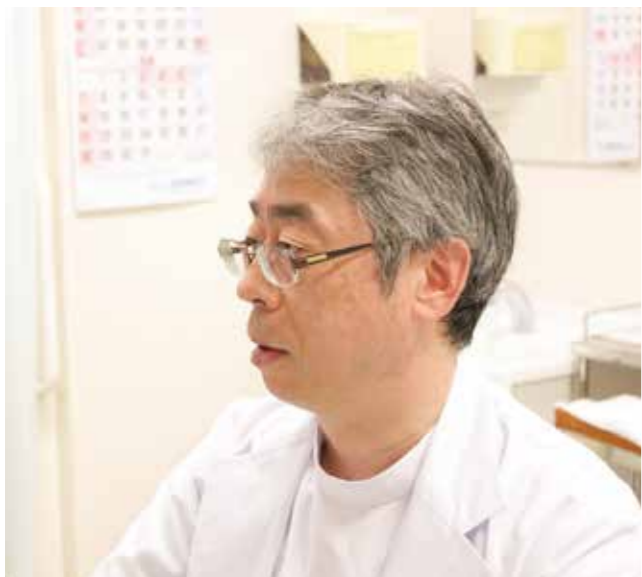
#### 患者の責務

- 1 自身の病状や健康に関する情報を詳しく正確に伝えてください。
- 2 社会的ルールを遵守し、自身と他の患者さまと共に良質な医療を受けることができるよう、病院の規則、職員の指示を守ってください。



## 幹部紹介

### 副院長



いけだ たかし  
**池田 天史**

(兼脊椎センター長) (救急・災害医療担当)  
(医事業務担当)



ささき まさと  
**佐々木 雅人**

(兼内科部長) (兼消化器内科部長) (兼肝疾患センター長)  
(兼入院・外来診療部統括部長) (兼健康診断部長)  
(医療安全管理室長) (倫理担当)  
(兼がん総合診療センター長)

### 副院長



まつむら としゆき  
**松村 敏幸**

(兼治療就労両立支援部長) (兼地域医療連携室長)  
(兼労災疾病研究室長) (兼熊本労災看護専門学校長)  
(兼臨床研修センター長) (教育・研修担当)



ふくまつ ゆきとし  
**福松 之敦**

(兼産婦人科部長) (兼地域医療連携副室長)  
(薬事、治験担当)

### 院長補佐



みやざき しんいち  
**宮崎 眞一**

整形外科部長  
(兼関節外科部長)



はやし ひろのり  
**林 裕倫**

乳腺外科部長



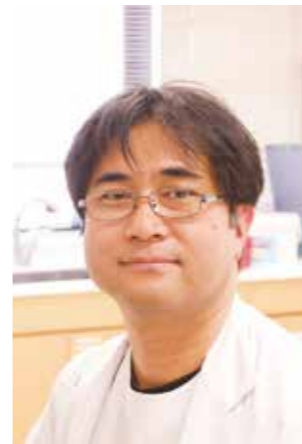
あらかき ゆうし  
**荒木 裕至**

放射線科部長  
(兼中央診療部統括部長)  
(兼医療情報部長)



かねこ けんこ  
**金子 健吾**

糖尿病・代謝内科部長  
(兼栄養管理部長)



いざか まさよし  
**飯坂 正義**

一般外科部長  
(兼救急・災害診療部長)



ますだ まさこ  
**増田 聖子**

耳鼻咽喉科部長



やまね ひろみ  
**山根 宏美**

第二呼吸器内科部長

呼吸器内科



あんど まこと  
**安道 誠**

呼吸器内科部長  
(兼感染制御部長) (兼アスベスト疾患センター長)  
日本呼吸器学会指導医、  
日本内科学会総合内科専門医・指導医



やまね ひろみ  
**山根 宏美**

第二呼吸器内科部長  
日本呼吸器学会指導医、  
日本内科学会総合内科専門医・指導医



まるやま ひろたか  
**丸山 広高**

腫瘍内科部長  
(兼がん総合診療センター副センター長)  
(兼化学療法センター長)  
日本呼吸器学会専門医、  
日本内科学会総合内科専門医



なかやま ごう  
**中山 剛**

呼吸器内科副部長  
日本内科学会認定医



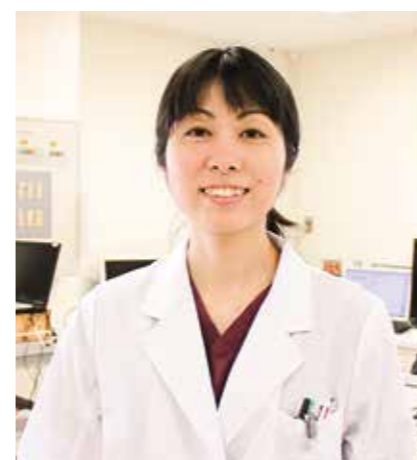
しみず  
**清水 ゆかり**

呼吸器内科医師  
日本内科学会認定医



かわぐち ひろや  
**川口 紘矢**

呼吸器内科医師  
日本内科学会認定医



くわさき えりこ  
**鍬崎 恵里子**

呼吸器内科医師  
日本内科認定医、  
日本呼吸器学会専門医



いむら あきひこ  
**井村 昭彦**

呼吸器内科医師



くろき みき  
**黒木 美樹**

呼吸器内科医師

4月から黒木美樹医師が着任し、9名体制で診療を行っています。熊本県南呼吸器内科の拠点病院として、入院患者数は2001年度403名から2019年度1239名と3倍に増加しています。呼吸器感染症、肺癌、気管支喘息、慢性閉塞性肺疾患、間質性肺炎など呼吸器疾患全般と不明熱やその他の感染症疾患など、地域医療機関からの紹介・救急患者に対応しています。2019年度の入院内訳では肺炎・胸膜炎などの感染症が568名(45.8%)と最も多く、高齢化社会を反映して高齢者の嚥下性肺炎の救急受診が多くを占め、経口摂取の可否に関しては、耳鼻咽喉科での嚥下評価、STによる嚥下リハビリを共同で行っています。肺癌は手術非適応例でも化学療法の進歩で延命効果も高くなり、入院から外来に移行しての化学療法も積極的に行なっており、2019年度の入院は336名から319名(25.7%)と若干減少しています。呼吸器外科も常勤体制で肺癌だけでなく、臍胸、気胸など協力して診療に当たっています。気管支喘息・肺気腫などの閉塞性肺疾患の入院は、感染合併による急性増悪が殆どで救急受診や他院からの紹介入院です。間質性肺炎は原因によって治療法や予後が大きく異なり専門性が要求される分野ですが、特発性・膠原病関連肺炎・薬剤性肺炎等も含めて102名(8.2%)とやや増加傾向です。また、2016年の熊本地震において閉鎖した八代市立病院の結核に代わって、2019年12月当院に結核患者収容モデル事業に基づいた前室付きの陰圧室2床が完成し肺結核や新型コロナ感染症などの収容が可能となりました。特殊外来として、職業性肺疾患、特にじん肺、アスベスト関連疾患に関しては数少ない専門医療機関として、診断や手帳検診等で県外からも広く患者様の紹介を受け入れアドバイスや労災疾病申請の援助などを行っています。

## 消化器内科

令和5年に入り、コロナ感染者もだいぶ減少してきました。最近では熊本県内の感染者数も2桁です。昨年、クラスターが発生した当院でも感染者は数名となりました。デルタ株のころは世界中であれほど恐れられ、若い方も命を落とすほど重症化率が高かったのに、オミクロン以降は若い方に軽症が多く、高齢者や基礎疾患のある方に中等症が多いが、感染終了後に体力が戻らず基礎疾患の悪化や合併症で亡くなる方が多いようです。政府は5月8日に「感染症5類」に格下げするとしていますが、内視鏡検査や入院前に行ってきたPCRや抗原検査をどうするか、感染の減少を受けての学会の方針もまだ更新されておらず現場任せになっており、患者や病院の肉体的、経済的負担も増えています。今後第9波が来る可能性も否定できず、抵抗力の少ない病人や高齢者の多い病院という職場なので、一般社会と同じように感染対策を緩める訳にはいきませんが、基本的な感染予防に留意しつつも、少しずつ負担を減らしても良い頃かも知れません。

当院の消化器内科では、千代永卓先生、市川亮先生、日隈ゆかり先生、富口純先生、米田暁先生、松田暖先生と私の7人体制ですが、日隈先生は昨年6月より出産・育児休暇中のため、実質は6人体制です。当科の基底ベッド数は41ですが、多いときは60名を超えることもあります。千代永先生は胆膵専門のため、ERCPや超音波内視鏡など胆膵系の検査・治療が増加しています。昨年Spy-glassという結石を破砕できる胆道鏡を導入したので、胆管結石を直接観察して破砕・治療も可能です。閉塞性黄疸や胆嚢炎におけるPTCDやPTGBDも行っています。胆膵悪性腫瘍に対する外科的治療が困難な場合は、既存の化学療法のほか、胆道癌には最新のデュルバルマブ治療も可能です。

緊急の上下部内視鏡検査の他、NBI・拡大内視鏡、上下部消化管ESD、小腸/カプセル内視鏡、CTコロノグラフィー、食道胃静脈瘤治療、胃瘻造設・交換などは通常業務として行っています。

肝臓専門外来を毎日行っており、外科、放射線科と共に「肝疾患センター」を運営しています。ほぼすべての肝疾患を扱っていますが、B/C型肝炎のコントロールがほぼ完全に可能となった現在、院内外での掘り起こし・啓発活動に力を入れています。特に当科では、検査部で検出したHBs抗原/HCV抗体陽性者はすべてチェックして、必要であれば他科の患者であっても消化器内科を受診するよう担当医または患者に通知するシステムを2018年より確立しています。丁寧に持続的なフォローアップを心がけて肝癌を早期発見し、手術・ラジオ波・TACEによる治療につなげています。さらに肝癌に対する分子標的治療薬ソラフェニブやレンパチニブ治療のほか、免疫チェックポイント阻害剤の新薬デュルバルマブ+トレメリムマブ、アテゾリズマブ+ベバシズマブ併用。ラムシルマブ、レゴラフェニブ、カボメティクスなど最新の治療が可能です。消化器外科医のほか移植外科の林田信太郎先生、小児外科の大矢雄希先生など経験豊富なDrがおられるので肝切除は充実しています。

治療困難な悪性腫瘍も増えていますが、病棟消化器カンファレンス、外科・放射線科・病理との合同カンファレンス、HCCカンファレンス、キャンサーボードにて多角的な目で治療方針を決定しています。ポート造設による最新の化学療法を積極的に導入し、情報の共有が早く密で適切な医療を提供しています。学会・研究会にも多数参加しており、JDDWや地方会のほか、ボストン、シンガポール、バンコク、上海、パリ、台湾、香港の国際学会でも発表しました。今年熊本で開催された、消化器病学会/消化器内視鏡学会九州支部例会では6演題を発表しました。

田中靖人教授が熊大消化器内科に赴任されて以来、大学医局は臨床と研究の両輪が回り始めているように思われます。創薬に関わる研究など夢のあるテーマをリードされておられ、医局の明るい活気を感じるのか若い人たちも入局を希望する人たちが増えているようで、毎年活力ある若い消化器内科医師を送って頂く医局に大変期待しています。



さ さ き ま さ と  
佐々木 雅人

副院長 (兼内科部長) (兼消化器内科部長) (兼肝疾患センター長) (兼入院・外来診療部統括部長) (兼健康診断部長) (医療安全管理室長) (倫理担当) (兼がん総合診療センター長)  
日本消化器病学会指導医、日本肝臓学会暫定指導医、日本消化器内視鏡学会専門医



ち よ な が た け た か  
千代永 卓

内視鏡科部長  
日本消化器病学会専門医、  
日本消化器内視鏡学会専門医



と み ぐ ち じ ゅ ん  
富口 純

消化器内科副部長

日本消化器病学会専門医、日本肝臓学会専門医、  
日本消化器内視鏡学会専門医



い ち か わ り ょ う  
市川 亮

消化器内科副部長

日本消化器病学会専門医、  
日本消化器内視鏡学会専門医、日本肝臓学会専門医



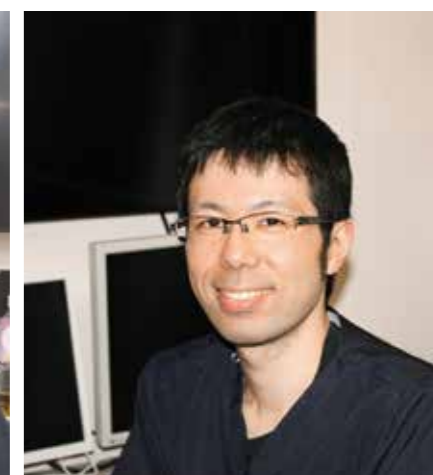
ひ の く ま  
日隈 ゆかり

消化器内科医師



ま つ だ だ ん  
松田 暖

消化器内科医師



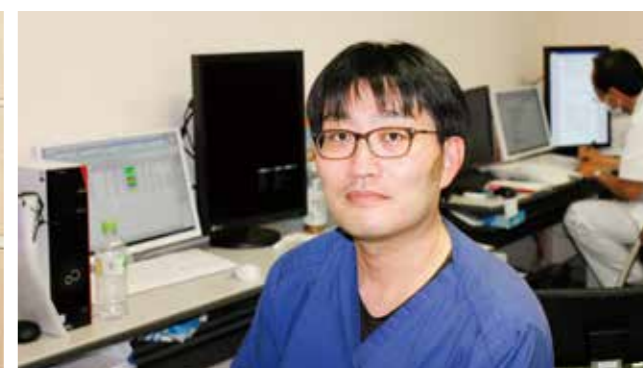
よ ね だ あ き ら  
米田 暁

消化器内科医師



そ の だ た か よ し  
園田 隆賀

非常勤医師 (毎週火曜日午後)



ぐ し ま り ょ う す け  
具嶋 亮介

非常勤医師 (毎週火曜日午後)

## 脳神経内科

脳神経内科では、脳梗塞、てんかんなどの神経救急疾患から、パーキンソン病、認知症などの神経変性疾患、また頭痛やしびれ、ふるえなどの日常よくみられる症状にいたるまで、幅広く診断・治療を行っております。この中でも、特に片頭痛についてはここ数年急性期治療、発症抑制ともに有効性の高い新薬が登場し、治療に革命が起きています。当科は毎日専門医が外来対応しておりますので、頭痛で診断や治療に迷う場合は是非ご紹介いただければと存じます。

地域の先生方からご紹介いただいた患者様につきましては、当科で治療方針が決定した後は可能な限り紹介元で治療を継続していただくよう病診連携を図っていきたくと考えています。

※竹内先生に替わり、池ノ下先生が非常勤で金曜外来を担当されます。



はら やす ゆき  
原 靖 幸

脳神経内科部長  
日本頭痛学会指導医、  
日本神経学会、  
日本脳卒中学会専門医



やま もと ふみ お  
山本 文 夫

脳神経内科医師  
日本神経学会認定医、  
日本脳卒中学会認定医



いけ の した すすむ  
池ノ下 侑

非常勤医師（毎週金曜日）

## 糖尿病・代謝内科

主な対象疾患／糖尿病、甲状腺疾患（バセドウ病、橋本病、甲状腺腫瘍など）、内分泌疾患（下垂体、副甲状腺、副腎など）

糖尿病・代謝内科は年々増加の一途を辿る糖尿病を中心とした生活習慣病の診断・治療・教育から、甲状腺機能異常あるいは甲状腺腫瘍をはじめとした内分泌疾患の診断・治療を主に行っています。また、栄養サポートチームの一員として他科入院中の患者様の栄養状態改善や血糖コントロールを積極的に介入することで、術後合併症の減少等にも大きく貢献しております。今年も1名の先生が交代となりましたが、「フットワーク軽く」のモットーは変わらず診療を行っていきたくと思います。



かね こ けん じ  
金子 健 吾

院長補佐 糖尿病・代謝内科部長  
(兼栄養管理部長)  
日本糖尿病学会専門医・研修指導医



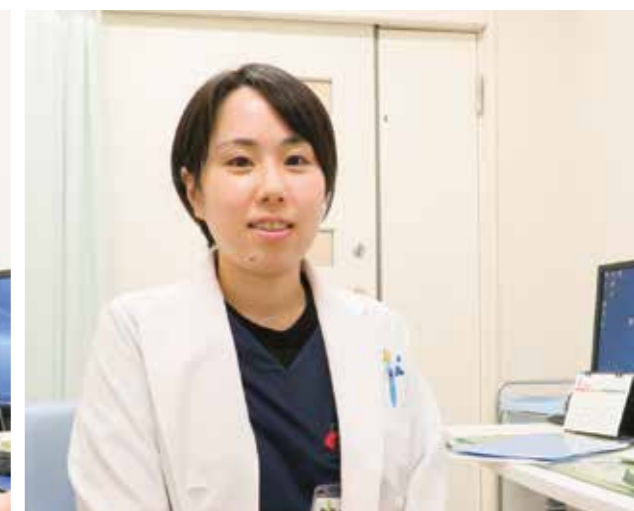
いわ した しん すけ  
岩下 晋 輔

第二糖尿病・代謝内科部長  
(兼臨床研修センター副センター長)  
日本糖尿病学会専門医・研修指導医、  
日本内科学会総合内科専門医



よし だ とも ふみ  
吉田 知 史

糖尿病・代謝内科医師



いまい ゆい こ  
今井 佑 衣子

糖尿病・代謝内科医師

# 循環器内科

主な対象疾患／心不全、虚血性心疾患（狭心症、急性心筋梗塞など）、心筋症、高血圧、不整脈、弁膜症、末梢血管疾患、高脂血症など



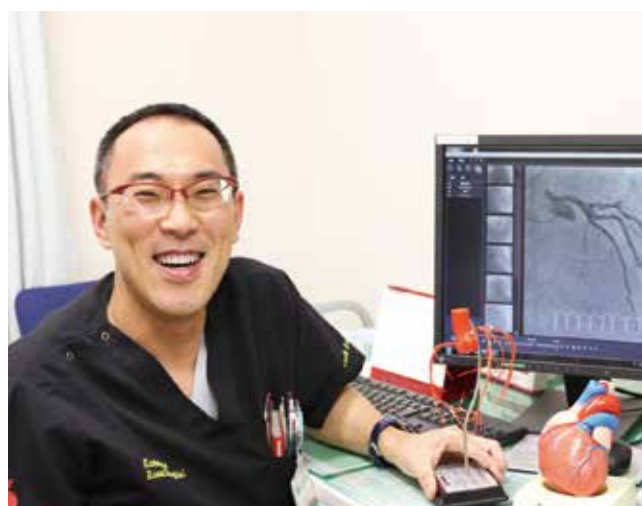
まつむら としゆき  
**松村 敏幸**

副院長（兼治療労両立支援部長）（兼地域医療連携室長）（兼労災疾病研究室長）（兼熊本労災看護専門学校校長）（兼臨床研修センター長）（教育・研修担当）  
日本循環器学会専門医、日本心血管インターベンション治療学会指導医、社会医学系指導医



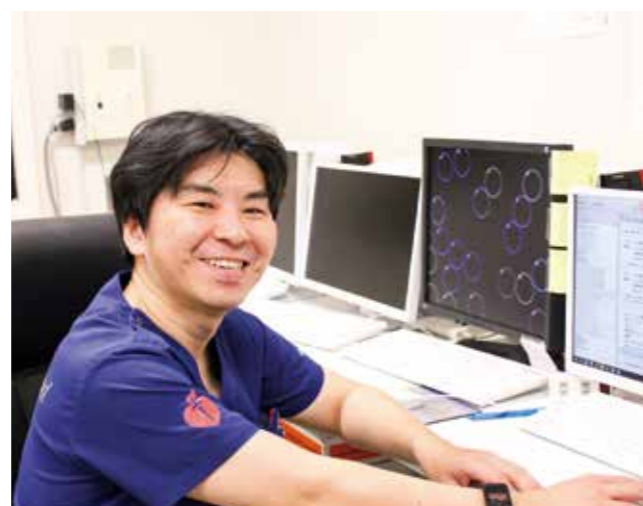
どい ひでき  
**土井 英樹**

循環器内科部長（兼血管内科部長）  
日本循環器学会専門医、浅大腿動脈ステントグラフト実施医、日本心血管インターベンション治療学会認定医



あべ こうじ  
**阿部 浩二**

第二循環器内科部長  
（兼心臓リハビリテーション部長）  
日本循環器学会専門医、日本心血管インターベンション治療学会専門医、日本内科学会総合内科専門医、日本心臓リハビリテーション学会指導士



かわかみ かずのぶ  
**川上 和伸**

第三循環器内科部長  
日本循環器学会専門医、日本不整脈心電学会認定不整脈専門医、日本心血管インターベンション治療学会認定医、日本内科学会総合内科専門医、日本心臓リハビリテーション学会指導士

循環器内科はスタッフの異動に伴い、小森田貴史先生を迎え、新たな診療体制となりました。私共の使命としております救急患者さんの迅速な受け入れ、的確な診断と治療、地域の先生方とのスムーズかつ充実した連携などを通して、引き続き熊本県南の心臓および血管を守って参ります。

また外来におきましても2診体制を継続し、循環器内科および血管内科を統合した形で心臓ならびに全身の血管疾患に対する診療への包括的な対応を行ってまいります。何か少しでも気になることがありましたらいつでもどうぞご紹介ください。

川上和伸先生をリーダーとする種々の不整脈に対する診療も、地域の先生方のご理解ならびにご協力もあって多くの患者さんをご紹介いただいています。心房細動をはじめとするカテーテルアブレーション治療やペースメーカー治療などによりお元気になった患者さんから、大変喜んでいただいています。

また一昨年から始動しました阿部浩二先生をリーダーとする心臓・血管リハビリテーションに、外来および病棟に心不全療養指導士の資格を有する専任看護師1名を配置し、さらに充実した対応が可能となりました。これまで以上に積極的に入院中から介入して、退院後も可能な限り自分の足で歩ける状態を維持し、また心不全増悪による再入院減少に寄与できるよう取り組んでいきたいと思っております。



こもり たかし  
**小森田 貴史**

循環器内科副部長



ふるかわ しょうたろう  
**古川 祥太郎**

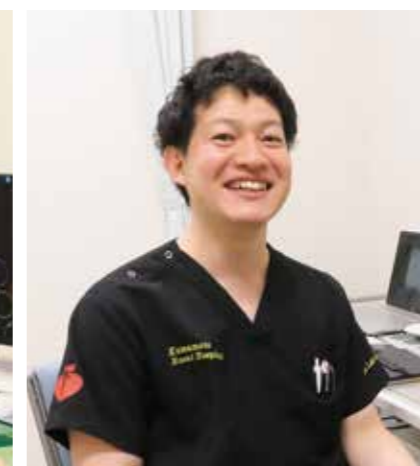
循環器内科副部長

日本循環器学会専門医、日本内科学会総合内科専門医、日本心血管インターベンション治療学会認定医



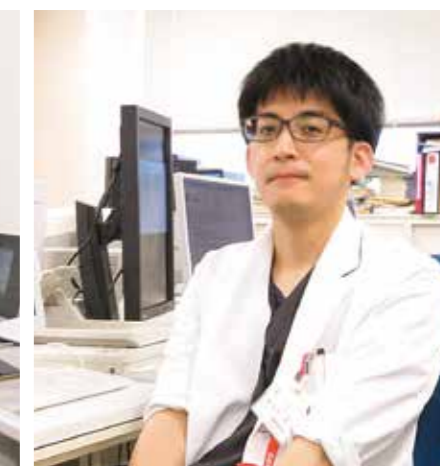
たけお まさひろ  
**竹尾 政宏**

循環器内科医師  
日本心血管インターベンション治療学会認定医



こばやし たかひろ  
**小林 貴大**

循環器内科医師



いしまる たけひろ  
**石丸 雄大**

循環器内科医師

## 循環器足壊疽外来

初めまして、日本形成外科学会専門医・指導医、医学博士の匂坂（さきさか）正信と申します。宮崎大学の医学部を卒業後、東京大学の形成外科に入局し、その関連施設である杏林大学で波利井清紀教授に師事し、その医局人事で様々な病院で診療を行って来ました。

その中で、糖尿病性足潰瘍、重症下肢虚血、褥瘡などの「難治性創傷」といわれる病気は、東京近郊でさえ専門的に治療を行う医師が少なく、「これは故郷の熊本では困っている患者さん、医師がたくさんいるのではないか」と思いました。そのため、この分野の診療や研究に特に力を入れながら、国立がん研究センター中央病院や山梨大学病院では合計5年間、頭頸部癌、軟部悪性腫瘍、乳房再建などの遊離皮弁移植術による再建手術を専門的にを行い、直近では静岡済生会総合病院の形成外科科長を勤めた後に、2021年4月から熊本に戻りました。

重症下肢虚血という、「足に傷ができ、そこに血が通っていないため、傷が治らず壊死していく病気」の治療を行う上で、血の巡りを改善していただける循環器内科医、心臓血管外科医の先生方と協力するのは必須であるため、熊本労災病院の循環器内科の土井英樹先生達とチームを組み、毎週水曜日に「循環器足壊疽外来」として診療を行っています。

出来るだけ残せる組織を温存しながら、同時に感染源となる壊死組織は的確に除去して感染コントロールを行い、最新の創傷治療の手段を用い、最短の治療期間で日常に復帰していただけることを目標に、医師、看護師、義肢装具士の皆さんで一丸となって治療にあたっています。傷の治療と血流の治療を同時進行で、同じ外来ブース内で行える環境が何よりありがたく、最大の強みであると考えています。

また入院が必要な場合も、傷を専門的に診ることができる皮膚排泄ケア認定看護師や、病棟の看護師さん達、循環器内科の先生方と連携して治療を行っています。

局所陰圧閉鎖療法や成長因子、創傷被覆材を用いた最新の治療はもちろん、傷が治った後も再発するための靴やインソールの調整、装具作成、フットケアも行っており、総合的に足病変をフォローアップしていきます。

最近ではカテーテル治療が出来ないような末梢の血管病変をお持ちで、これまでは血流改善をあきらめざるを得なかったような患者さんに対して、LDLアフェレーシスや遠赤外線治療を組み合わせることで、慢性的な虚血の痛みを軽減させ、創傷を治癒に向かわせることができそうな兆しが見えてきました。

引き続き、あきらめずに患肢の温存に尽力して参りますので、足の傷が治らない症例を抱えていらっしゃる先生方は、何でもご相談下さい。よろしく申し上げます。



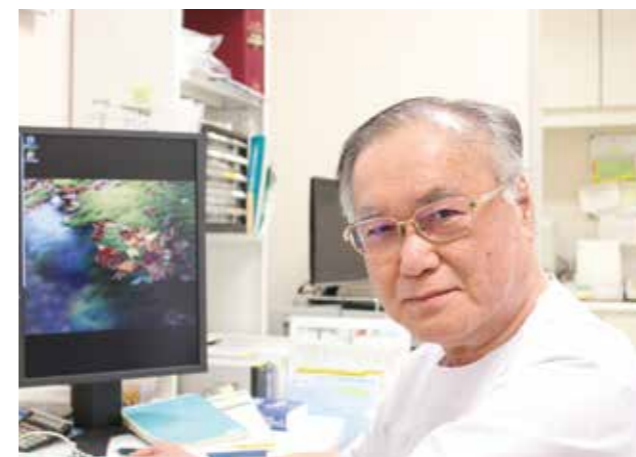
さき さか まさ のぶ  
**匂坂 正信**

非常勤医師（毎週水曜日）  
サキサカ病院  
形成外科・美容外科医師

## 腎臓内科

尿素窒素やクレアチニンの上昇があり、腎機能障害が確認される慢性腎臓病ステージ3以上の患者様は、他科疾患の合併や手術などで容易に腎機能の悪化がみられ、適切な治療を行わなければさらに悪化して尿毒症に至るリスクが増加します。腎臓内科では入院・外来ともにこれらの患者様を管理し、適切な治療が行えるよう努めています。

腎不全が悪化し重篤となる場合には、尿生成が十分に出来ずに体内に水分が貯留する溢水、高カリウム血症、高窒素血症などが問題になります。腎臓内科外来は、火曜日は原道顕、木曜日は大学病院からの非常勤医師神吉智子が診療にあたっております。日常診療でこれら腎臓病を合併した患者様のコントロールに問題が生じた場合、お気軽にご相談ください。



はら みち あき  
**原 道顕**

非常勤医師（毎週火曜日）



かん き とも こ  
**神吉 智子**

非常勤医師（毎週木曜日）

## アレルギー外来



い で ぐ ち ひ で は る  
**出口 秀治**

非常勤医師（第1・第3木曜日）  
いでアレルギー・呼吸器クリニック院長

アレルギー外来を担当させていただいております、いでアレルギー・呼吸器クリニックの出口（いdeguchi）です。アレルギー診療は一筋縄でいかないことが多く、患者様の診療を通して日々勉強させていただいております。例えば、血液検査の陽性・陰性とその患者様がアレルギーかどうかは必ずしも一致しません。乳児の採血をして卵白のIgEを測定すると多くのお子様は陽性ですが、実際には卵アレルギーではないことが多いです。また、感作部位と誘発症状が異なることがあることがとても興味深いです。最近では有名な話となっておりますが、食物アレルギーは湿疹から始まるので、食物アレルギーの治療として、湿疹の治療をしなければなりません。他にも、クラゲに刺されて納豆アレルギーになったり、マダニに刺されて牛肉アレルギーになったり、魚アレルギーの原因も小児は魚、成人はアニサキスなど興味深いことが数多くあります。

このようなことから食物アレルギーの診断には経口食物負荷試験がスタンダードです。県内でも成人の食物アレルギーの負荷試験をおこなっている施設はほとんどありませんので、ご紹介いただけましたら幸いです。負荷試験は1泊2日の入院で施行させていただいております。



## 小児科

当科は八代医療圏における小児医療の中核的な役割を担っており、圏内唯一の小児入院施設として主に二次救急医療に携わっています。外来では急性期の患者（主に感染症疾患）だけではなく神経疾患（てんかん、発達障害など）、腎泌尿器疾患（ネフローゼ症候群、慢性腎炎など）、内分泌疾患（成長ホルモン分泌不全性低身長症、甲状腺機能低下症など）、循環器疾患、血液疾患など多岐にわたる慢性疾患患者の治療に従事しています。また入院患者の多くを占めるのが感染症疾患であり、院内感染防止に気を遣いながら対応しています。

小児科診療では子どもの病気の診断や治療だけでなく、成長・発達の評価をもとに子どもが健康に育っていくための助言や支援を実践することが求められています。健診や病後外来で機嫌よく過ごす子ども達を診たり、病気や事故に対する予防法について母親へ啓蒙したり、育児についてのちょっとした質問に答えたりするのは、小児科医の大事な役割であり、その役割自体が大きな喜びでもありと私たちは実感しています。

子どもは自分の言葉で正確に訴えることができませんが、体調の良否を表情・活気・食欲・周囲への反応などで表現しています。症状が改善しない、原因がはっきりしない、何か気になる、など小児の診療でお悩みの際は当科へお気軽にご相談・ご紹介ください。



よしむた じゅんいちろう  
**吉牟田 純一郎**

小児科部長  
日本小児科学会専門医



わたなべ ひじり  
**渡邊 聖**

小児科副部長



まついし めい  
**松石 芽衣**

小児科副部長  
日本小児科学会専門医



ながぬま せつこ  
**永沼 節子**

非常勤医師（毎週月曜日）  
日本小児科学会専門医

## 脳神経外科

脳神経外科では、くも膜下出血や脳出血といった出血性脳血管障害、慢性硬膜下血腫をはじめとする頭部外傷、良性腫瘍を中心とした脳腫瘍など、脳神経外科疾患全般の診療を行っています。虚血性脳血管障害に対しても、当院脳神経内科協力のもとで、頸動脈内膜剥離術や浅側頭動脈中大脳動脈吻合術などの血行再建術にも積極的に取り組んでまいります。熊本大学脳神経外科や近隣医療機関とも連携し、最先端の医療から地域医療まで幅広く実践してまいります。



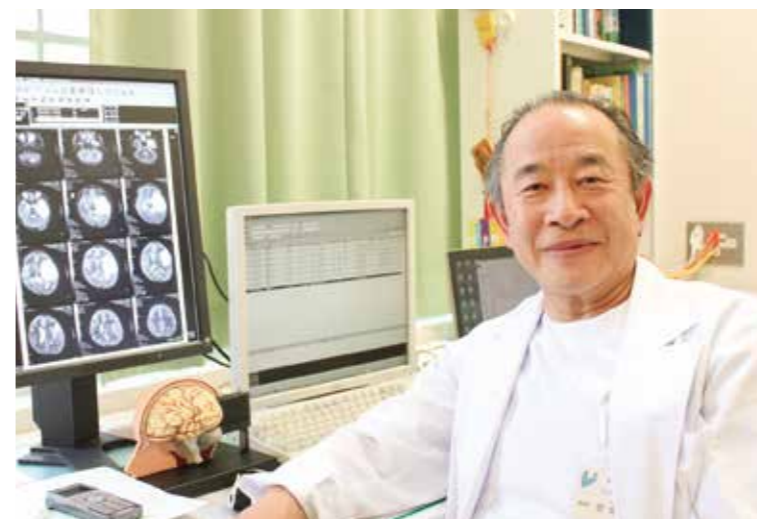
うえだ ゆたか  
**植田 裕**

脳神経外科部長  
(兼勤労者脳卒中センター長)  
日本脳神経外科学会指導医、  
日本脳卒中学会専門医



かわの たつや  
**河野 達哉**

脳神経外科医師



よしだ あきまさ  
**吉田 顕正**

脳神経外科医師  
(兼リハビリテーション科医師)  
日本脳神経外科学会専門医

## 血管内科

私が本院で心臓以外の血管（下肢動脈、鎖骨下動脈、腎動脈、その他静脈疾患）の診療を始めるようになって、19年目に突入致しました。この間カテーテル治療を施行した症例は述べ1900を超えました。これも日頃からの地域の先生方のご協力によるものと感謝申し上げます。今後もこれまでと同様に心臓血管外科の先生方ともしっかり連携を取りながら最善の治療法を選択し、適切な治療を提供してまいります。また本年も外来診療では、循環器内科外来との2診制により月曜日から金曜日まで、血管疾患にてご紹介いただいた患者さんに、毎日しっかりと対応いたします。

さらに昨年からは毎週水曜日の足壊疽外来にて、東京大学や国立がん研究センター、杏林大学などで、多くの創傷治療に携わってこられたサキサカ病院 形成外科 匂坂正信先生に足壊疽班として活躍いただいています。当科へは下肢虚血をはじめとする、様々な原因でなかなか創傷が治らない患者さんが多く来院されますが、匂坂先生はこれまでの豊富な経験とその卓越した技術により、下肢や趾切断を覚悟した患者さんの足をたくさん救っていただいています。これからも匂坂先生を中心として、WOCナースの坂田舞さんと循環器内科および血管内科担当医師がチーム一丸となって、一人でも多くの患者さんの足を救うべく頑張っていきたいと思っております。



ど い ひで き  
土井 英樹

血管内科部長（兼循環器内科部長）

日本循環器学会専門医、  
浅大腿動脈ステントグラフト実施医、  
日本心血管インターベンション治療学会認定医

## 心臓血管外科

当科では主に虚血性心疾患、弁膜症、心房細動などの不整脈、大動脈瘤や急性大動脈解離などの心臓大血管に対する外科的治療を行っており、安全性および確実性を考えた治療を心掛けています。ハイリスク症例では、人工心肺を用いない冠動脈バイパス術（オフポンプ心拍動下冠動脈バイパス術：OPCAB）やステントグラフト内挿術（血管内治療）など低侵襲手術および通常の手術にこれらの低侵襲手術を組み合わせるハイブリッド手術（例えば、弓部大動脈瘤に対する弓部分枝再建を併施するステントグラフト内挿術など）にも積極的に取り組んでおり、ハイリスク症例や緊急症例に対しても合併症や死亡率の低下を図り、術後もADLが損なわれない様な治療を心掛けています。下肢静脈瘤に対するレーザー治療（血管内治療の1つで小さい傷で治療します）も行っています。心臓大血管疾患の手術適応、手術内容や手術のリスク（手術死亡率や合併症発生率など）、予後についてなどお気軽にご相談、ご紹介ください。



もり やま しゅう じ  
森山 周二

心臓血管外科部長（兼心臓血管センター長）

三学会構成心臓血管外科専門医認定機構修練指導者、  
心臓血管外科専門医、日本胸部外科学会認定医、日本  
外科学会専門医・指導医・認定医、下肢静脈瘤血管内  
治療実施医

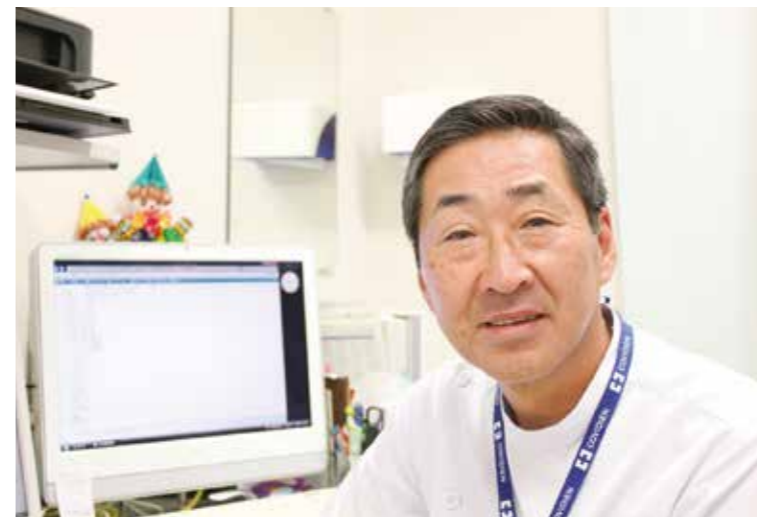


なか だ こう すけ  
中田 浩介

心臓血管外科医師

腹部大動脈ステントグラフト治療実施医

## 形成外科



形成外科は主に先天的、後天的な変形等を形態的・機能的に修復・再建する外科であり、社会への適応を最終目的として診療を行っています。現在、非常勤体制ですが、可能な限り対応したいと思っております。

お ぐ ら たけし  
小倉 猛

形成外科医師

## 呼吸器外科

肺癌をはじめ、心臓・大血管および乳腺、脊椎以外の胸部の病変に対する手術を行っています。胸腔鏡を使用し、できるだけ低侵襲な手術を行うように努めています。特に肺癌に対しては、診断から手術、術前術後のリハビリ導入、術後の抗癌剤治療など、スムーズに治療を継続できるよう呼吸器内科、放射線科、病理診断科、リハビリテーション科と連携しています。



しば た ひで かつ  
柴田 英克

呼吸器外科部長

日本外科学会指導医、日本呼吸器内視鏡  
学会気管支鏡指導医・評議員、日本呼吸  
器外科学会専門医・評議員、腹腔鏡安全  
技術認定、がん治療認定医、日本臨床細  
胞学会専門医

## 消化器外科・一般外科

熊本県南の基幹病院として一般的な外科的疾患、救急医療はもちろんのこと常に進歩多様化するがん診療においても最新の知見が提供できることを基本としています。

当院外科は消化器外科、乳腺外科、呼吸器外科、小児外科・移植外科の各領域の専門医を含む医師で構成されており、消化器外科の手術件数も増加傾向にあり、2022年度は431件の手術を行いました。当科では内視鏡外科手術にも力を注いでおり、胆石症、胆嚢炎のみならず、胃癌、大腸癌なども内視鏡下に手術を行っています。さらに手術のみならず術前術後の癌に対する化学療法、その後の緩和医療も含め、癌患者に対し全人的な医療を提供できるよう取り組んでおります。高齢化社会、核家族化に伴い患者本人をとりまく家庭環境も非常に厳しくなっており、中央の医療機関とは違うバックアップができるのも熊本労災病院の強みの一つと考えています。

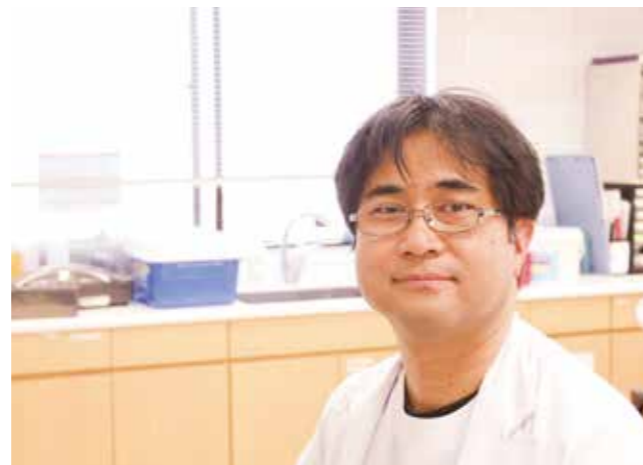
当科は日本外科学会、日本消化器外科学会の専門医修練施設として、一般診療のみならず研究、教育活動も行うように心がけています。



いのう えみつ ひろ  
**井上 光弘**

消化器外科部長

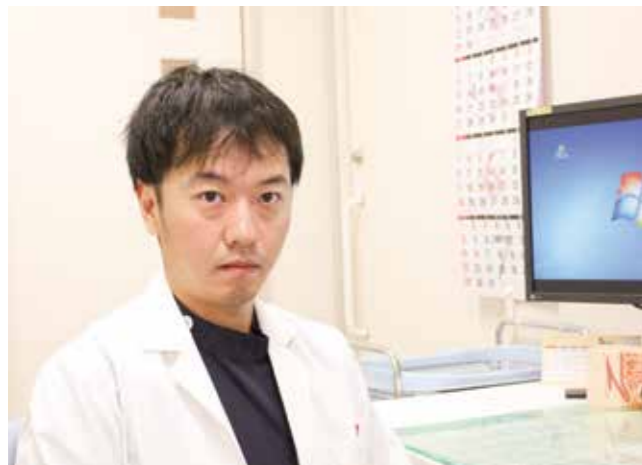
日本外科学会指導医・専門医、日本消化器外科学会指導医・専門医、日本消化器病学会専門医、日本内視鏡外科学会技術認定医、日本癌治療認定医機構認定医



いゐ ざか まさ よし  
**飯坂 正義**

院長補佐 一般外科部長 (兼救急・災害診療部長)

日本外科学会認定医、日本消化器外科学会専門医、消化器がん外科治療認定医、日本がん治療認定医機構認定医



つじ あきら  
**辻 顕**

消化器外科副部長／一般外科副部長

日本外科学会専門医



え とう つぎ お  
**江藤 二男**

消化器外科副部長

## 乳腺外科

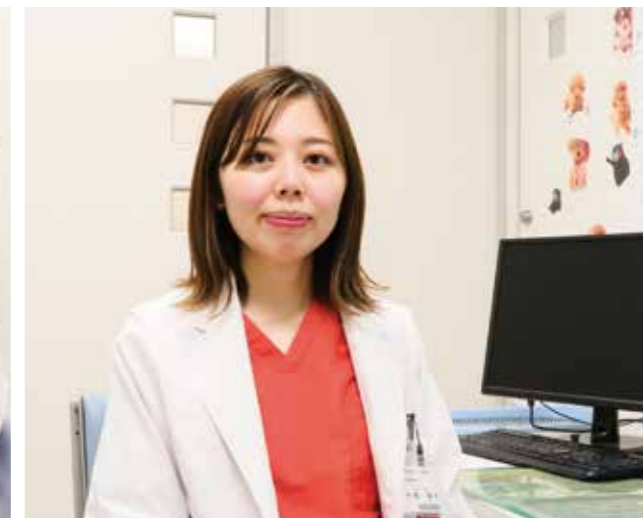
乳腺に関する全般的な疾患（乳がん、良性腫瘍、乳腺炎、女性化乳房など）を扱います。とりわけ当院で乳房精査を行い、乳がんではなかった方については、乳がん啓蒙活動の一つとして乳がんのreal size 3D modelを供覧し、今後の乳がん検診普及と自己検診の意識向上に努めていきたいと考えています。また、開業医の先生方よりの紹介については、診療情報提供書を通じて、当院の診療内容が手に取るように理解していただけるように工夫しながら行っていきたいと思ひます。



はやし ひろ のり  
**林 裕倫**

院長補佐 乳腺外科部長

日本外科学会指導医、日本乳癌学会乳腺指導医



たけ の まさ こ  
**竹野 雅子**

乳腺外科医師

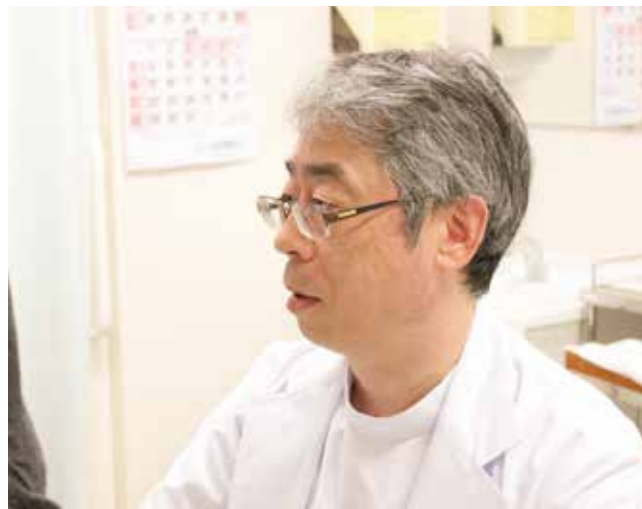
非常勤医師



## 整形外科

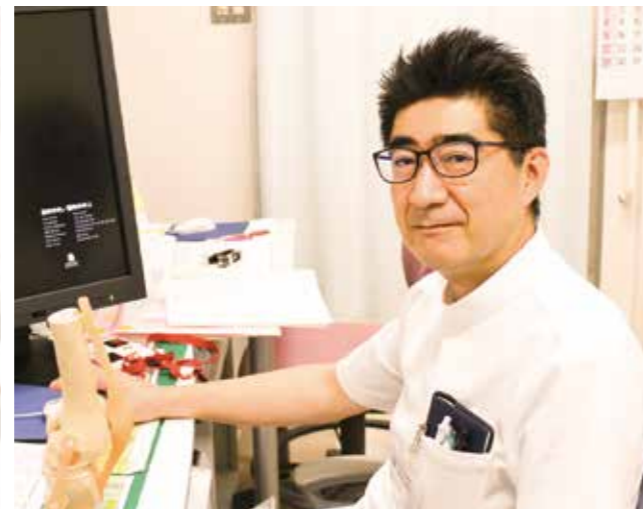
整形外科では、9名体制で診療を行っており各分野の専門医が在籍しております。脊椎外科（顕微鏡使用の除圧術や金属を併用した固定術など）、関節外科（人工関節や関節鏡視下手術など）、手外科、マイクロ、外傷（骨折や脱臼）に対する手術を多く行っています。

令和4年度は手術1,613例でした。救急・手術に力を入れており、時間外、緊急の場合にも対応しています。令和4年度、1日平均入院患者数78.9人、1日外来患者数96.9人、在院日数20.7日でした。手術・救急対応重視の為、外来新患は救急と紹介患者とさせていただきます。地域医療機関の先生方には外来通院加療・救急入院転院加療など大変お世話になっております。



いけ たかし  
池田 天史

副院長（兼脊椎センター長）  
（救急・災害医療担当）（医事業務担当）  
脊椎脊髄外科専門医・指導医、  
日本整形外科学会専門医



みやざき しんいち  
宮崎 眞一

院長補佐 整形外科部長  
（兼関節外科部長）  
日本整形外科学会専門医、  
日本リウマチ学会専門医



つちだ とおる  
土田 徹

手外科部長  
日本整形外科学会専門医



かわぞえ やすひろ  
川添 泰弘

脊椎外科部長  
脊椎脊髄外科専門医・指導医、  
日本整形外科学会専門医

### 2022年度年間実績

- 手術室での手術症例数 1,613例
- 入院患者数 28,781人（1日平均 78.9人）
- 外来患者数（延数） 23,536人（1日平均 96.9人）



ふたつ やま かつ や  
二山 勝也

整形外科部長  
日本整形外科学会専門医



むとう かず ひこ  
武藤 和彦

第二脊椎外科部長  
日本整形外科学会専門医、  
脊椎・脊椎外科専門医・指導医



かた やま のぶ ひろ  
片山 修浩

整形外科副部長  
日本整形外科学会専門医



いしかわ よし ひと  
石川 喜仁

整形外科医師



いで じゅんの すけ  
井手 淳之介

整形外科医師

## 小児外科・移植外科

小児外科では、新生児から概ね中学生くらいまでのお子さんの一般的な外科疾患を扱います。新生児を含めて、吐く、便秘、腹部膨満、腹痛、痔瘻や裂肛などおしりの異常、便に血が混じる、便の色が薄い、内臓や体表の腫瘍、でべそや異常な分泌物などのおへその問題、足の付け根が腫れる（鼠径ヘルニア=いわゆる脱腸）、陰嚢に水がたまって腫れる（陰嚢水腫）など、なんでもご相談ください。

移植外科では、肝臓移植を主に、手術前の相談や、移植医療の実施、脳死移植施設への紹介、術後のフォローアップを行います。小児から成人までの重い肝臓病のかたの治療選択相談、あるいは大学病院などで肝臓移植を受けたあとのケアを希望される場合には気軽にご相談ください。



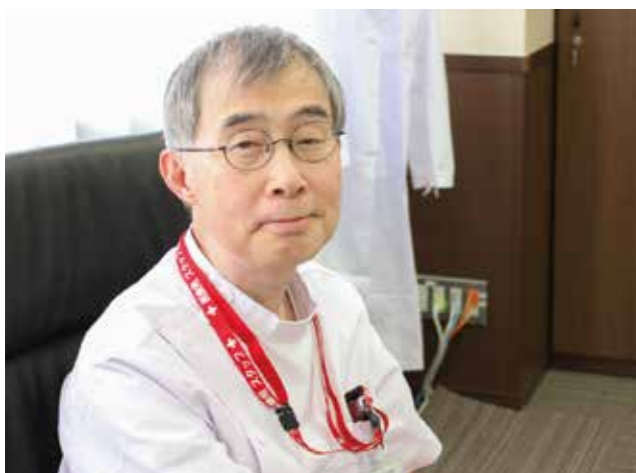
おお や ゆう き  
大矢 雄希

小児外科部長  
(兼緩和ケア科部長) (兼医療安全管理室副室長)  
日本外科学会専門医、日本小児外科学会専門医、  
日本移植学会移植認定医



はやしだ しん た ろ う  
林田 信太郎

移植外科部長  
日本外科学会専門医、日本移植学会移植認定医



いのまた ゆ き ひろ  
猪股 裕紀洋

院長  
日本外科学会指導医、日本小児外科学会指導医、  
日本消化器外科学会指導医、日本移植学会移植認定医、  
社会医学系専門医



ありとめ のりふみ  
有留 法史

小児外科医師

## 皮膚科

皮膚科は医師3名で診療を行っています。  
外来では、湿疹、真菌症、中毒疹などの一般皮膚疾患治療に加えて、皮膚腫瘍・皮下腫瘍の診断・小手術を行っています。  
入院では、带状疱疹、蜂窩織炎といった感染症、全身性薬疹、皮膚良性および悪性腫瘍の治療を行っています。  
患者様に良質な医療を提供できるよう努めてまいりますので、今後ともよろしくお願いいたします。



じょう の たか みつ  
城野 剛充

皮膚科部長  
日本皮膚科学会、難病指定医



おしかわ ゆ か  
押川 由佳

皮膚科医師  
日本皮膚科学会専門医



やま した じゅん じ  
山下 淳二

皮膚科医師

## 泌尿器科

昨年より今藤淳之助先生が新たに加わり、宮本、中村合わせて3名で診療を行っています。  
泌尿器科では、悪性腫瘍、排尿障害を中心に泌尿器科全般の診療を行っています。悪性腫瘍では腎癌、腎盂尿管癌、膀胱癌、前立腺癌などが中心で、早期診断、早期治療および手術、放射線科治療、化学療法を併用した集学的治療により癌制圧に取り組んでいます。

また、進行癌の場合であってもがん化学療法においては最新の分子標的薬や免疫チェックポイント阻害薬なども積極的に治療に取り入れ、患者さんのQOLを維持しながら予後の改善に取り組んでいます。かかりつけ患者様の年1回のPSA測定をこの場を借りてよろしくご依頼申し上げます。排尿障害もまずは薬物療法を行い、無効例には主に内視鏡による手術を施行します。当院では安全な手術をモットーに、高齢者であってもカテーテルフリー、QOL向上を目指して積極的に手術を行っています。尿路結石に対しても最新のレーザー機器を用いた経尿道的碎石術を行い、ほとんどの症例において一回の治療で結石の消失がみられています。

小児に対しても積極的に手術を行います。例えば、小児の停留精巣は年間10数例程度ですが、この10数年一定数を維持していることから八代圏では手術適応となる患児がこの程度存在するという証です。小児科の先生方にもこの場を借りて御紹介申し上げます。

「小児から高齢者まで疾患を問わず八代で治療を完治させる」を目標に診療を行ってまいりますので、いつでもお気軽にご相談ください。



みやもと ゆたか  
**宮本 豊**

泌尿器科部長  
日本泌尿器科学会指導医



なかむら けいすけ  
**中村 圭輔**

第二泌尿器科部長  
日本泌尿器科学会指導医



いまふじ じゅんのすけ  
**今藤 淳之助**

泌尿器科医師

## 産婦人科

地域周産期中核病院の産科として、八代圏域にとどまらず、人吉球磨圏域、宇城圏域、芦北圏域からの症例にも対応し、他科との連携により様々な合併症妊娠の管理を行っています。また、当院には新生児集中治療室はありませんが、小児科と連携し切迫早産の入院管理や、妊娠34週以降で人工呼吸管理が必要ないと予想される早産にも対応します。

婦人科疾患に関しては、子宮筋腫、子宮内膜症、卵巣腫瘍などの良性疾患はもとより、子宮頸がん・体がん、卵巣がん、腹膜がんなどの悪性腫瘍の治療も行っています。手術療法に加え、化学療法や放射線科との共診による放射線治療も可能です。

かかりつけの患者様で産婦人科に関連する訴えがあれば、お気軽にご紹介いただければ幸いです。

### 令和4年度のCOVID-19陽性妊婦受け入れ状況

|              |    |
|--------------|----|
| 受け入れ妊婦数      | 29 |
| 紹介元医療機関の所属圏域 |    |
| 八代圏域         | 10 |
| 人吉球磨圏域       | 8  |
| 宇城圏域         | 7  |
| 熊本市          | 1  |
| 自院           | 1  |
| 県外           | 2  |
| 分娩方法         |    |
| 帝王切開         | 27 |
| 経膈分娩         | 2  |



ふくまつ ゆきとし  
**福松 之敦**

副院長(兼産婦人科部長)  
(兼地域医療連携副室長)(薬事、治験担当)  
日本専門医機構認定産婦人科専門医、日本産科婦人科学会認定産婦人科指導医、日本婦人科腫瘍学会認定婦人科腫瘍専門医・指導医、日本がん検診・診断学会認定がん検診認定医、母体保護法指定医師



ちが まさひこ  
**値賀 正彦**

産婦人科医師  
日本専門医機構認定産婦人科専門医、日本産科婦人科学会認定産婦人科指導医、母体保護法指定医師



すぎの れいか  
**杉野 麗花**

産婦人科医師

## 耳鼻咽喉科

耳鼻咽喉科は2015年4月より常勤医1名で診療を再開いたしました。その後2016年5月より2名、2019年10月より3名に増員となり、より充実した診療が行えるようになりました。

耳鼻咽喉科は耳、鼻、口腔、咽頭、喉頭、頸部と広い領域を扱う診療科です。取り扱う疾患も中耳炎、副鼻腔炎、扁桃炎などの炎症性疾患、アレルギー性鼻炎等の免疫疾患、難聴やめまい、嗅覚障害、味覚障害、顔面神経麻痺などの感覚器・神経障害、音声や嚥下などの機能障害、睡眠時無呼吸症候群、悪性腫瘍を含む頭頸部領域の腫瘍性疾患等、多岐にわたる疾患を診察、治療しています。当科ではほとんどの耳鼻咽喉科疾患の検査、治療を当院で完結できるように対応しております。また高次医療機関での治療が必要と判断した場合は、熊大病院等を紹介させていただいております。まずはご相談ください。



ますだ まさこ  
**増田 聖子**

耳鼻咽喉科部長

日本耳鼻咽喉科学会専門医・指導医、日本気管食道科学会専門医、日本耳鼻咽喉科学会補聴器相談医、日本耳鼻咽喉科学会補聴器キーパーソン、日本めまい平衡医学会認定めまい相談医、日本職業・災害医学会認定労災補償指導医



たけむら じゅんや  
**竹村 隼也**

耳鼻咽喉科医師

日本耳鼻咽喉科学会認定医、日本耳科学会認定医



むらかみ あきら  
**村上 瑛**

耳鼻咽喉科医師

### 外来診療予定表

|    | 月    | 火    | 水    | 木            | 金  |
|----|------|------|------|--------------|----|
| 午前 | 一般外来 | 一般外来 | 一般外来 | 一般外来<br>専門外来 | 手術 |
| 午後 | 専門外来 | 手術   |      | 専門外来         | 手術 |

専門外来について（まず一般外来で診察を行い、必要な方を予約制で行っています。）

補聴器・耳鳴外来：第1/3/5月曜午後、毎週木曜午前 嚥下機能検査：毎週木曜午後 めまい検査外来：毎週月曜午後

## 眼科

眼科は平成28年1月より当院眼科の常勤医勤務が再開となり、平成31年4月からは常勤医2名で診療しています。平日午前一般外来を行い、月曜・木曜の午後は手術、火曜・水曜・金曜の午後はレーザー治療、硝子体内注射、外来手術、眼底造影検査、術前検査など特殊検査・処置を行っています。また、令和元年の10月から、視能訓練士が常勤となり、複視や斜視・弱視の検査も行っています。当科では、常勤医勤務の再開後は白内障手術を増やしていったところとあります。

可能な限り多様な疾患に対応したいと思っておりますので、まずはご相談ください。今後ともよろしくお願い申し上げます。



いりえ あんな  
**入江 杏菜**

眼科副部長



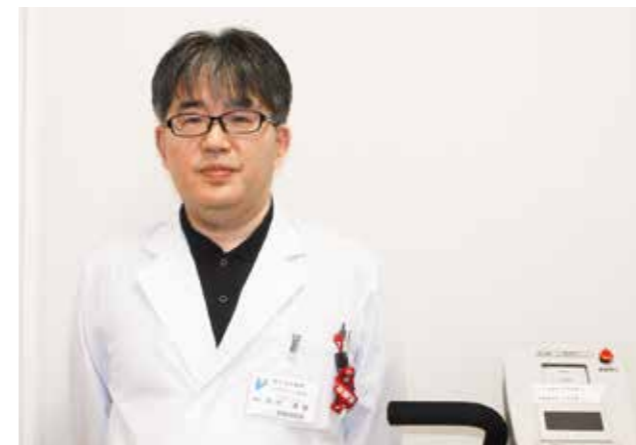
よしずみ はなこ  
**吉積 華子**

眼科医師

## リハビリテーション科

当科は当院入院中の患者様に対しリハビリテーションを行っています。

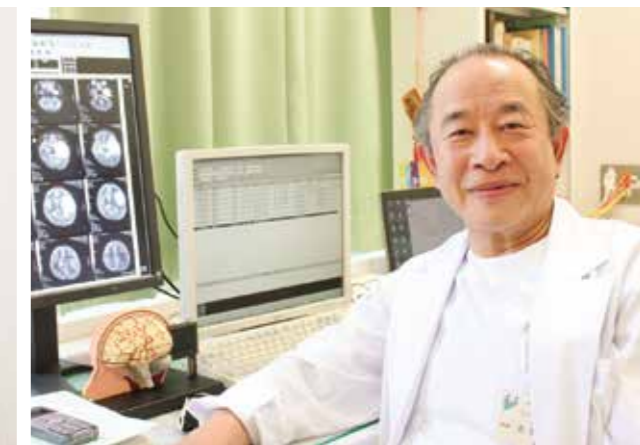
高齢化に伴い、元々の病気の状態が不安定になったり、合併症が増えて不自由になり、日常生活で配慮や調整が必要となったりする場合があります。そういったときに、リハビリテーションの検査や治療で、介護される方だけでなく介護する方も安全で安楽な暮らしができるように取り組んでおります。



まつむら なおき  
**松村 直樹**

リハビリテーション科部長

日本リハビリテーション医学会認定医



よしだ あきまさ  
**吉田 顕正**

リハビリテーション科医師（兼脳神経外科医師）

日本脳神経外科学会専門医

## 放射線科

現在の医療においては、的確な診断を行うために画像診断は必要不可欠な手段であり、熊本労災病院では放射線科常勤医4名で業務にあたっています。また日本放射線科学会が定める放射線科専門医研修機関に認定されており、後進の放射線科医や臨床研修医の指導に力を注いでいます。

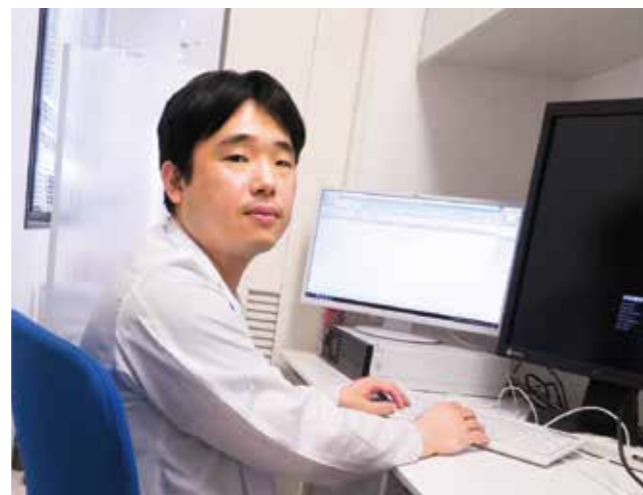
平成28年4月以来、既存の3.0T MRI装置に加え、1.5T MRI装置を導入し、予約待ち日の大幅短縮および検査のニーズに合わせたMR画像の提供ができる体制となりました。

また、平成29年1月より熊本県初の2管球CTが稼動しています。国内でも最高峰レベルのCT装置ですので、熊本県南地区をはじめ医療圏ニーズに応えられるような画像提供を、更には研究部門でもその力を発揮すると期待しています。お困りの症例などありましたら是非ご紹介ください。



あらき ゆうし  
**荒木 裕至**

院長補佐 放射線科部長  
(兼中央診療部統括部長) (兼医療情報部長)  
日本医学放射線学会研修指導者、  
日本医学放射線学会放射線診断専門医



よこた やすひろ  
**横田 康宏**

放射線科副部長  
日本医学放射線学会放射線診断専門医



いのうえ たいへい  
**井上 泰平**

放射線科副部長  
日本医学放射線学会放射線診断専門医



もりぐち なおや  
**森口 直哉**

放射線科医師

## 麻酔科

手術件数増加で、当院の年間麻酔科管理症例は約2,800例を超えるようになりました。手術室内での麻酔業務をこなすことで精いっぱい状況が続いており、現在ペインクリニックは休診しております。

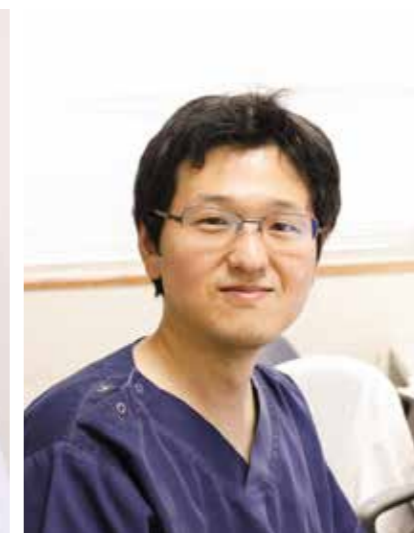
「断らない麻酔」を心掛けていますが、術前診察時に全身状態改善のため、あるいは追加検査を行うため手術を延期した方がよい患者様を見つけることも、麻酔科の重要な役割と考えます。どうぞご理解ください。

各科と協力しながら安全な麻酔を目標とし、高度かつ質の高い医療を提供できるよう努めてまいります。



なりまつ のりこ  
**成松 紀子**

麻酔科部長  
(兼集中治療部長) (麻酔科標榜医)  
日本麻酔科学会認定指導医、  
日本専門医機構認定麻酔科専門医、  
日本集中治療医学会専門医、  
日本救急医学会専門医、  
Infection Control Doctor(ICD)、  
日本DMAT 隊員 (統括)



やまべ のりひさ  
**山部 典久**

第二麻酔科部長  
(兼中央手術部長) (麻酔科標榜医)  
日本麻酔科学会認定指導医、  
日本専門医機構認定麻酔科専門医



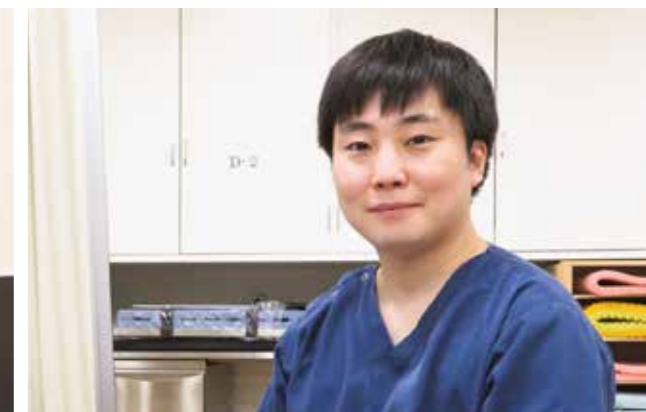
なかしま けん  
**中嶋 健**

第三麻酔科部長  
(麻酔科標榜医)  
日本麻酔科学会認定指導医、  
日本専門医機構認定麻酔科専門医



たなか しょうへい  
**田中 祥平**

麻酔科医師



これまつ しんのすけ  
**是松 伸之介**

麻酔科医師



## リウマチ内科／リウマチ・膠原病内科

関節リウマチは効果的な治療薬であるMTXや生物学的製剤、JAK阻害剤などが積極的に使われるようになり、早期診断治療により良好な疾患コントロールも可能となってきました。少しでもお役に立てればと思います。



やまむら ゆうじ  
**山村 雄治**

リウマチ科医師  
浜田呼吸器科内科クリニック/  
リウマチ科

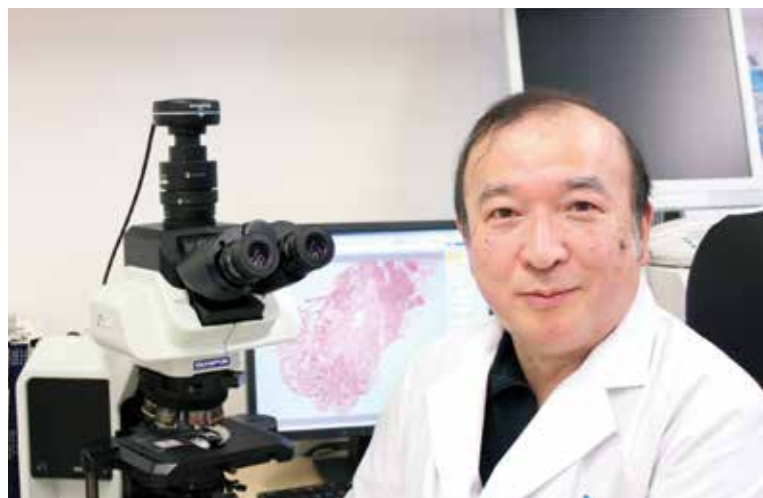
日本リウマチ学会専門医（評議員）、ICD  
認定医、【所属学会】日本シェーグレン症  
候群学会等

みずはし ゆみこ  
**水橋 由美子**

リウマチ・膠原病内科 非常勤医師（第2・4水曜日）

## 病理診断科

当科は熊本県南の中核病院における病理診断部門であり、質の高い医療を支援するために、組織診断、細胞診断、術中迅速診断、病理解剖を行っています。近隣の医療機関からの生検などの診断も行っています。病理解剖の結果はCPCを行い、臨床の向上に役立てられています。電子カルテや病理診断支援システムの導入により、マクロ、ミクロの情報を併せた病理診断の報告を行っています。術中迅速診断では、手術中に病変の組織診断や断端の判定などを行い、常勤病理医のいるメリットを最大限にいかしています。自動免疫染色装置の導入により、乳癌や胃癌におけるHER2 (IHC)、悪性リンパ腫や軟部腫瘍などに関連した、さまざまな免疫染色を院内で迅速に行い、より精度の高い病理診断に寄与しています。



くりわき かずみ  
**栗脇 一三**

病理診断科部長  
(兼検査科部長)

日本専門医機構病理専門医、  
日本臨床細胞学会認定細胞診専門医

## 臨床研修医

当院は、多診療科を有する地域の中核病院として、救急医療、がん治療、小児周産期医療など豊富で幅広い症例を背景に、初期研修医に対して、チーム医療の中で、医療の基礎知識、総合的診断能力や基礎的医療技術の修得を目指した研修を実施しています。研修医の自主性が尊重される研修システムであり、積極性のある研修医は臨床経験も豊富となり、大きな伸びが期待できます。また、「何を与えられたいか」ではなく「何を学びたいか」という研修医の自主性を重んじ、一人一人に対し、マンツーマンのきめ細やかな、実践主義の指導を心掛けています。

研修医には、年間を通して週に1回各上級医による早朝講義を実施しているほか、月に1回は経験症例発表会を開催しており、終了後には上級医を含めたみんなで病院提供のカレーを食す『カレーの会』として親しまれています。また、当院は卒後臨床研修評価機構（略称JCEP）より、2022年1月18日評価委員会で認定証発行が承認されました。JCEPは、国民に対する医療の質の改善と向上をめざすため、臨床研修病院における研修プログラムの評価や人材育成等を行い、公益の増進に寄与することを目的とし設立されました。書面による調査と訪問による調査（実地訪問）により評価が行われます。

今後も、臨床研修病院として研修医の育成に努めていきます。

### 1年次 研修医



あまの ちゅうはるな  
左から：天野ゆり（基幹型）、あらかねまほ 荒金真帆（基幹型）、ちゅうはるな 長春菜（基幹型）、いとながひかり 糸永光里（基幹型）

### 2年次 研修医



たのうえさとし かい ともり たばたりょう とくなが しげあき  
後列左から：田上 慧（基幹型）、甲斐 智恭（基幹型）、田畑 遼（基幹型）、徳永 成晃（基幹型）  
つかもと なおき もちだ かおり くまべ ひかる よしおか ゆきひら  
前列左から：塚本 尚紀（基幹型）、持田 香織（基幹型）、隈部 光（基幹型）、吉岡 幸英（基幹型）

## 看護部

当院は、熊本県南の公的中核病院として、救急医療・がん治療・災害医療等に積極的に取り組んでいます。近年、患者さんの高齢化に加え、短い入院期間内で集約された医療や看護サービスが求められています。当院は全職員が力を合わせ、チーム力を発揮し良質で信頼される医療の実践を目指しています。そして、看護部は「病院の理念と倫理に基づき患者さんに寄り添い満足して頂ける看護を提供します」を理念としております。看護職は、日々のケアを通して患者さんの心にふれ、心に寄り添い、心に残るような看護を実践していきたいと思っています。どうぞよろしくお願いいたします。



やまがみ つばき  
山上 艶子

看護部長  
認定看護管理者



さかうえ かずえ  
坂上 和江

看護副部長



あらかわ なおみ  
荒川 直美

看護副部長

### 看護部理念

病院理念と職業倫理に基づき患者に寄り添い満足して頂ける看護を提供します。

#### 看護部 基本方針

- 1 社会情勢や医療の進歩に即応し、安全で安心して頂ける質の良い看護サービスを効率的に提供する
- 2 インフォームドコンセントをもとに自己決定を支える看護を提供する
- 3 急性期医療・地域医療推進の中、医療チームの一員としての職務を果たせるように看護実践能力を高める
- 4 専門職業人として、質の高い看護を目指し自己研鑽に努める

### 認定看護師・特定認定看護師・特定看護師



おかやま ひろこ  
岡山 浩子

緩和ケア認定看護師



みやがわ あきこ  
宮川 亜希子

緩和ケア認定看護師



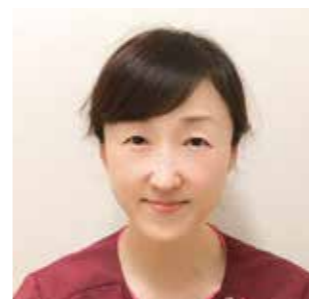
もとやま しょうこ  
本山 詔誇

糖尿病看護認定看護師



わくだ ようこ  
和久田 容子

感染管理認定看護師



おくら なおこ  
大倉 尚子

感染管理認定看護師



たかむら あつし  
高村 敦史

感染管理認定看護師



みずまち ひろえ  
水町 広恵

脳卒中リハビリテーション看護認定看護師



たなか こうき  
田中 孝樹

脳卒中リハビリテーション看護認定看護師



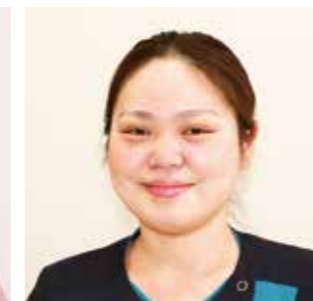
さかた まい  
坂田 舞

皮膚・排泄ケア認定看護師



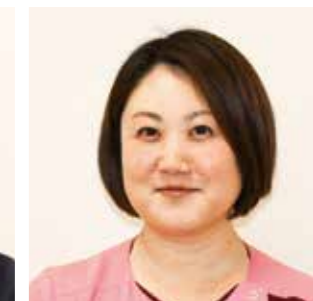
すがわら ますみ  
菅原 真澄

呼吸器疾患看護特定認定看護師



うめだ ちずこ  
梅田 知寿子

がん化学療法看護認定看護師



てらせ まりこ  
寺瀬 真利子

クリティカルケア特定認定看護師



かきもと さとみ  
柿本 里美

認知症看護認定看護師



うえぶち けいこ  
上淵 恵子

認知症看護認定看護師

- 認定看護師  
緩和ケア認定看護師/2名、糖尿病看護認定看護師/1名、感染管理認定看護師/3名、脳卒中リハビリテーション看護認定看護師/2名、皮膚・排泄ケア認定看護師/1名、がん化学療法看護認定看護師/1名、認知症看護認定看護師/2名 計12名
- 特定認定看護師(特定行為研修を修了した認定看護師)  
クリティカルケア認定看護師/1名、呼吸器疾患看護認定看護師/1名 計2名
- 特定看護師(特定行為研修を修了した看護師)  
救急集中領域2名

## 薬剤部



薬剤部長  
谷口 一成  
たにぐち かずなり

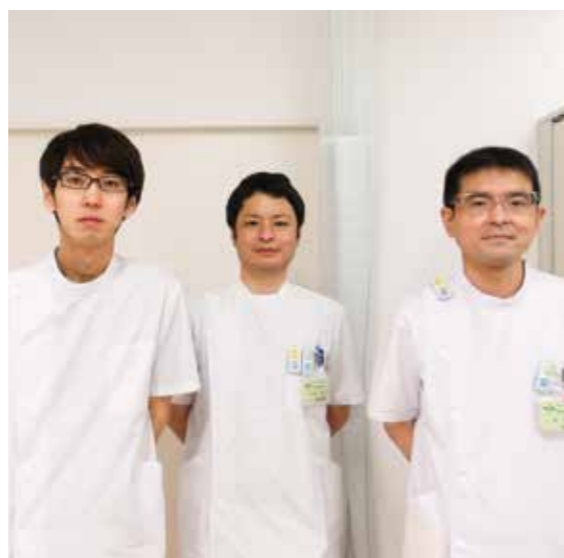
薬剤部では、患者さまのアドヒアランス向上と副作用の防止を図るために、服薬や薬の注意点などの説明を入院患者さま中心に行っています。また、安全で適正に医薬品を使用するために、医療従事者や患者さま・患者さま御家族へ、薬に関する情報を提供しています。現在、感染、糖尿病、栄養、がん、緩和などのチームの一員としても活動しています。医療が多様化・複雑化する中、安心できる医療の提供のため、より専門的な知識を備える必要があり、薬剤部でも認定・専門薬剤師の資格修得を推進し資格修得者も増えてきました。今後も患者さまへより良い治療が行われるために、医薬品適正使用の支援に努めてまいりますのでよろしくお願いいたします。

## 中央放射線部



中央放射線部長  
橋口 和博  
はしぐち かずひろ

中央放射線部は19名の技師と助手1名が在籍しております。2管球CT、MRI (3.0T) を含め23台の放射線撮影機器を取り扱っております。放射線科部長、荒木裕至先生をはじめ放射線科の先生方と連携し、撮影から画像診断まで速やかに行えるよう心掛けています。中央放射線部ではこれからも撮影技術を高める努力を重ね、信頼できる画像の提供を目指していきたいと考えていますので、連携医療機関の先生方におかれましては、今後ともご指導の程よろしくお願い申し上げます。



## 中央検査部



中央検査部長  
森谷 智輝  
もりたに ともき

中央検査部には、30名の臨床検査技師（正規23名、嘱託3名、定年後再雇用4名）と3名の検査助手（障がい者雇用）が在籍。日々の検査業務は勿論のこと、細胞検査士、超音波検査士、感染制御認定臨床微生物検査技師などの認定資格も多数在籍し、高度で専門的な診療支援を行っています。また、学会発表や研修会への講師派遣等の学術的な活動も積極的に行い、ICTやNST、糖尿病教室などのチーム医療にも貢献しています。検査精度保証としては、毎年 日本医師会、日臨技、熊臨技の外部精度管理も受審し、精度保証認証施設として認定も受けています。

生理検査部門には、最新のハイエンド超音波検査機器を多数整備し、心臓・腹部・血管・乳腺・表在領域の質の高い画像診断に貢献しています。また、労災病院の特色である振動障害検診を毎年、熊本・鹿児島県内に出張して行っています。検体検査部門は、一般検査、血液検査、生化学検査、輸血検査が含まれ、最新の高精度な自動化分析機器を整備し、迅速且つ信頼性の高いデータを報告しています。細菌検査部門は、県南地区の感染制御の中心的役割を担っており、県内では当院を含め5施設しかない研修施設認定も受けています。またCOVID-19対応としては、抗原定量検査とLAMP法、PCR法の核酸増幅検査で運用を行い、効率的で信頼度の高い診断に寄与しています。病理検査部門では、術中迅速診断や多項目の免疫染色や特殊染色を院内実施し、迅速かつ質の高い病理診断に貢献しています。また、抗悪性腫瘍剤や免疫チェックポイント阻害剤へのコンパニオン診断や迅速オンサイト細胞診(ROSE)への対応を行い、適切な治療と患者負担軽減にも貢献しています。

中央検査部は、これからも臨床検査センター長の吉田顯正先生と臨床検査科部長（病理診断科部長兼務）の栗脇一三先生 指導の下、スタッフ一丸となり、地域医療のニーズに対応できる検査部を目指し全力で努めてまいります。連携医療機関の先生方におかれましては、今後ともご指導の程よろしくお願い申し上げます。

## 中央リハビリテーション部



中央リハビリテーション部長  
岡元 進一  
おかもと しんいち

中央リハビリテーション部では、理学療法士17名、作業療法士7名、言語聴覚士4名、リハ助手3名の計31名で業務に取り組んでいます。整形外科疾患や脳血管疾患をはじめ、各種疾患に対して、入院早期、手術直後から介入しています。また、心疾患やがんのリハビリテーションに関しては、必要な資格や研修を受講した専門の療法士が実施しています。その他に、政策医療として職業復帰のための復職支援や、勤労者予防医療活動も実施しています。

地域活動としては、県から委託されている『八代地域リハビリテーション広域支援センター』として、圏域でのリハビリテーション従事者や地域の方々を対象とした研修会の開催や現地に出向いての相談対応など、地域に密着した医療・知識・技術の提供に積極的に取り組んでいます。

## 栄養管理部・栄養管理室



栄養管理室長  
ふじい  
藤井 しのぶ

栄養管理部では、患者さまの栄養改善、病状改善について、「食」の専門性を活かし、各医療スタッフと連携しながら取り組んでいます。入院患者様には、衛生管理を徹底し、安心安全で喜んでいただける食事の提供を行い、食事サービス面においては、毎日の朝食の選択メニューに加え、年間43回の行事食を提供し、中でも治療や疾患で食事摂取量が低下されている患者さまに対し、直接聞き取りを行いながら食事を提供するハート食（ハートフル食）は、患者さまに喜んでいただいています。また、入院・外来の患者さまに対し、肥満、糖尿病、循環器疾患、消化器疾患、癌、嚥下障害、アレルギー疾患など、医師の指示のもと個人指導・集団指導を実施しています。チーム医療では、NSTや緩和ケア、褥瘡チームに参画し、各医療スタッフとともに積極的な栄養改善に努めています。

栄養指導は毎日実施しております。ご要望などございましたら、お気軽に御相談、御紹介ください。

## 中央臨床工学部



中央臨床工学部長  
うえだ きみ あき  
植田 公昭

中央臨床工学部では、医師の指示の下、人工心肺装置や血液浄化装置などの生命維持管理装置の操作・保守・点検を行うことを主な業務としています。患者さまの治療・検査に関わる「臨床技術提供業務」、生命維持管理装置を含む医療機器を安全に使用するための「医療機器保守管理業務」を行っています。業務内容が多岐にわたるため、複数の診療科の医師、看護師、その他医療スタッフ、事務職員の方々と協力し、患者さまへより良い医療を提供できるように日々の業務に取り組んでいます。

## 入退院支援センター

### 目的

入院前から患者・家族が入院生活をイメージできるとともに、患者の身体的・精神的・社会的背景を把握し、退院後の生活を想定して院内外が多職種が連携し「切れ目のない支援」を提供する。

### 目標

1. 患者・家族が入院に対する不安がなく生活できるようにする。
2. 在宅復帰に向けた問題点を早期に発見し、患者・家族と共に解決できるように支援する。
3. 多職種（医師・病棟看護師・外来看護師・退院調整部門・医療ソーシャルワーカー・介護支援専門員・保健師・薬剤師・管理栄養士・リハビリ部門・事務等）と連携し、より専門的支援ができる。
4. 地域の医療機関・施設・介護事業所等との連携や社会資源の活用を行い、患者の療養環境を整える。

入退院支援センターでは、入院支援看護師4名、入院支援事務員3名で対応しています。入院支援看護師は、入院前に「身体的・精神的・社会的背景を含めた患者情報の把握」「入院前に利用していた介護サービス又は福祉サービスの把握」「褥瘡に関する危険因子の評価」「栄養状態の評価」「服薬中の薬剤の確認」「退院困難な要因の有無の評価」「入院中に行われる治療・検査の説明」「入院生活の説明」などを行います。入院支援事務員は、入院手続きに必要な書類の説明と入院案内、医療限度額適用・標準負担額認定証の手続きに対する説明、事務処理を行います。

入院支援看護師の具体的な支援内容は、入院・術前オリエンテーション・呼吸訓練指導・禁煙指導・栄養指導・休薬指導・口腔問題の確認及び口腔ケアの必要性に関する説明並びに医科歯科連携の手続き等です。患者に応じた支援を行い、スムーズな入院に結び付けています。また、病棟や外来と連携を図り看護の継続ができるように努め、必要に応じて多職種と連携しています。

### ● 入院支援をすることでの患者さまの利点

入退院支援センターであらかじめ説明を受けていれば、退院までにどのような治療プロセスをたどり、準備が必要なのかを話し合うことができ、心構えもできます。また、患者・家族の不安や予測される問題に対して早期から多職種協働をすることで、安全・安楽な入院生活を送ることに繋がります。



## 地域医療連携部・地域医療連携室

### 相談支援・退院支援・両立支援部門

地域医療連携室では、退院調整看護師4名、医療ソーシャルワーカー4名の計8名で、病棟担当制により業務にあたっています。なお、3名の医療ソーシャルワーカーが両立支援コーディネーターの資格を有しており、機構の大きな使命のひとつである治療と就労の両立支援にも積極的に取り組んでおります。どうぞお気軽にご相談ください。

- 入退院等に関わる各種ご相談・ご支援
- 医療機関・介護保険事業所との連携
- 各種社会福祉制度のご相談
- 治療と就労の両立についてのご支援



- 前列左から：  
 くすもと まい こ 楠本舞衣子 退院支援看護師 担当：西5病棟  
 やまもと あやの 山本彩乃 退院支援看護師 担当：東5病棟  
 くぼ たきよみ 久保田聖美 医療ソーシャルワーカー（社会福祉士） 担当：西4病棟  
 かばたに ゆたか 梶谷豊 医療ソーシャルワーカー（社会福祉士） 相談支援部門
- 後列左から：  
 むらた まみ 村田真美 退院支援看護師 担当：西3病棟  
 すみ みず 鷺見美鈴 退院支援看護師 担当：中央3病棟  
 かまた あや 鎌田あや 医療ソーシャルワーカー（社会福祉士） 担当：中央4病棟  
 なかむら まい こ 中村麻衣子 医療ソーシャルワーカー 担当：東4病棟

### 事務部門

事務が3名在籍しております。地域医療連携室では、地域医療機関、市町村行政機関及び介護保険事業所・施設等との連携窓口として、患者様の転院・在宅復帰支援、社会資源の情報提供、各種相談など幅広い業務を担っています。今後とも、これまで以上に密な連携を取り、地域と病院との架け橋となれるよう心掛けてまいります。

地域医療機関の先生方、患者様をはじめ、たくさんの方々に気軽にご利用いただけるよう努めてまいりますので、よろしくお願いいたします。

まつむら としゆき 松村敏幸  
 ふくまつ ゆきとし 福松之敦

副院長（兼治療就労両立支援部長）（兼地域医療連携室長）（兼労災疾病研究室長）  
 （兼熊本労災看護専門学校長）（兼臨床研修センター長）（教育・研修担当）

副院長（兼産婦人科部長）（兼地域医療連携副室長）（薬事、治験担当）

前列左から  
 まつむら としゆき 松村敏幸  
 ふくまつ ゆきとし 福松之敦

後列左から  
 まつなが ゆき 松永有希（連携室事務）  
 うえだ みきと 植田幹人（連携室係長）  
 おおの かずこ 大野和子（連携室事務）



- 紹介患者様の初診及び放射線科検査予約取得  
再診のご連絡の場合は直接、外来（14時以降）へご連絡ください
- 紹介状・返書の管理  
お返事が遅れている場合は恐れ入りますがご連絡ください
- 行政機関および地域医療機関等との連絡・調整
- その他よろず問合せ

どこに問い合わせたらいいかわからない…そのような時は一先ずお気軽にお電話ください。

### 問い合わせについて

病院代表電話



0965-33-4151

※救急患者に関する連絡はこちらへお願いします。

地域医療連携室  
 直通ファックス



0965-34-5799

放射線科検査予約  
 専用直通電話



0965-33-7227

検査方法の詳細につきましては病院HP：「医療関係の方へ」→「患者紹介」をご覧ください。

入退院支援・相談窓口  
 専用直通電話



0965-33-7231

退院調整、相談支援、両立支援に関するご用件の際にご利用ください。



独立行政法人 労働者健康安全機構

# 熊本労災病院

〒866-8533 熊本県八代市竹原町1670  
TEL 0965-33-4151 FAX 0965-32-4405



HP



フェイスブック  
熊本労災病院公式



インスタグラム  
熊本労災病院公式

<https://www.kumamotoh.johas.go.jp>